

高等学校第2学年 総合的な探究の時間



アンケートツールを使用してデータを収集することで、自分で立てた仮説を、分析・検証する

高等学校第2学年 総合的な探究の時間 「地域課題の探究」

■単元の目標

国際社会に共通する地域の課題を発見し、他者と協働してその課題の解決を図る探究的な学習を通して、論理的に思考し表現する力を育てると共に、課題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育てる。

■単元の概要

1年次に学んだ探究手法や地域に関する基礎的な知見を活かし、地域課題に焦点を当てた探究活動を行う。そこでは、フィールドワークや専門家との対話を通じて解決策を立案・実行する。

■単元の指導計画（70時間）

第1小单元

「課題の設定と計画立案」

- ・1年次の探究活動を振り返り、新たな課題を発見する。
- ・地域でのフィールドワークや専門家との対話を通じて課題を焦点化する。
- ・研究手法を検討し、夏休み中のフィールドワーク計画を立案する。

第2小单元

「課題の解決に向けた探究活動」

- ・設定した課題に基づき、仮説を立て、検証・考察を行う
- ・探究助言会で研究の方向性を見直し、問いを再設定する

第3小单元

「成果発表とまとめ」

- ・研究成果をまとめ、中間発表会で発表する。
- ・自身の研究の社会貢献性を考察し、次年度の目標を設定する

■小単元の概要

1年次で設定した探究課題について、社会貢献性や課題解決の困難さを再評価するため、地域行政や大学教授、民間企業の専門家と対話を行う。その過程で、課題の焦点化や対象の明確化を図る。また、フィールドワークの準備として文献調査や現状分析を行い、現場で収集すべき具体的な情報を計画する。

文献調査やフィールドワーク、アンケート調査を通じて、設定した課題に対する仮説を検証する。仮説検証の結果を分析・考察し、専門家の助言を受けたり探究助言会で他者の視点を取り入れたりする。

研究成果をスライドやレポートにまとめ、中間発表会で発表する。発表後のフィードバックを基に、研究内容を再検討し、最終的な成果物として統合する。研究を振り返り、次年度の探究活動に向けた新たな目標を設定する。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第2小単元）

【学習活動の場面】

地域の伝統食を広める方法について考える中で、生徒Aは「多くの人に直接知ってもらう場が必要ではないか」と感じ、イベントの企画を立案した。企画を進める中で、「参加者がどのように感じたのかを知ることで、より良い活動につながれるのではないか」という意見が生徒たちの間で生まれ、アンケートを実施することにした。

【子供の「深い学び」の姿】

生徒Aは、地域の伝統食を知ってもらうために地域行事でイベントを開催した。イベント後、クラウドで作成したアンケートフォームを活用して参加者にアンケートを実施した。集計結果は自動で可視化されるため、生徒Aはすぐに分析に取りかかることができた。

アンケートの回答内容は、世代によって大きく異なる結果となった。年配者からは「懐かしい味で心温まった」「地域の伝統を思い出す良い機会になった」といった感想が寄せられた一方、若者からは「地域の魅力を再発見できた」「どのように作るのか体験してみたい」といった意見が寄せられた。

生徒Aは、アンケートデータを世代別などに自由に加工し比較したことにより、「伝統食って、ただ食べてもらうだけじゃなくて、その人に合った伝え方が必要なんだなと思った。今度は若い人に向けて、実際に作る体験やストーリーを伝えたい。」と振り返った。

【当該指導での「深い学び」】

生徒Aは、地域の伝統食を知ってもらうイベントを通じて、地域文化の継承と発信の意義を具体的に理解した。アンケート結果から世代ごとの反応の違いに気づき、高齢世代には思い出を共有できる場が、若い世代には体験を通じた学びが効果的であることを見出した。この整理・分析の過程を通して、地域の伝統食を広めるという課題に対して、より効果的な仮説を検討することにつながった。

【活用したソフトや機能】 Google Forms（アンケートツール）

■指導上の工夫とICTの利活用

①教師の問いかけで思考を深める

* 「イベントを通じて何を伝えたいのか」「アンケートで何を知りたいのか」といった具体的な問いを投げかけ、生徒たちの目的を明確化するように促す。



②アンケートの作成と収集にオンラインツールを活用する

* アンケートツールを用いてアンケートを作成する。回答の集計や可視化も自動化されるため、迅速な分析が可能となる。



③アンケートを集計し、当初の仮説を検証する。

* 世代や属性ごとに回答を比較したり、自由記述の意見をテキストマイニングでキーワードを抽出し、意見の傾向を可視化するなどして、データの特徴を見つけ、当初の仮説をより効果的なものとなるよう検証している。

学習指導要領や解説との関連

学習指導要領 第4章 総合な探究の時間

第1 目標

(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようになる。

学習指導要領や解説との関連

学習指導要領解説 総合な探究の時間編

第2章 1 探究が高度化し、自律的に行われること

一つは、探究の過程が高度化するということである。高度化とは、①探究において目的と解決の方法に矛盾がない（整合性）、②探究において適切に資質・能力を活用している（効果性）、③焦点化し深く掘り下げて探究している（鋭角性）、④幅広い可能性を視野に入れながら探究している（広角性）などの姿で捉えることができる。

出典：高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編P9

第9章第3節 1 学習過程を探究の過程にすること

③ 整理・分析

②の学習活動によって収集した多様な情報を整理したり分析したりして、思考する活動へと高めていく。収集した情報は、それ自体はつながりのない個別なものである。それらを種類ごとに分けるなどして整理したり、細分化し因果関係を導き出したりして分析する。それが思考することであり、そうした学習活動を位置付けることが重要である。

出典：高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編P126